

EA21 環境活動レポート

2013年度

対象期間：2013/4/1～2014/3/31

発行日：2014-06-01



エコアクション21



環境方針

丸幸自動車工業は、お客様への「トータル・カーサービスを通してのお役立ち」をモットーに、日々営業活動に励んでまいりましたが、とりわけ『自然環境の維持向上に資する経営』こそが、結果として社会的利益の拡大のみならず、自社の経営基盤強化にも大いに発展をもたらすものと確信し、以下の諸活動の更なる推進を致します。

1. 省資源・省エネルギー活動の推進

環境負荷の低減を目指し、事業活動における電力・水等の資源、化石エネルギーの使用量の

削減に努めます。また、社内外においてエコドライブを実践・広報し、CO₂削減を推進します

2. 資源の再利用と、グリーン購入の推進

リサイクル品の活用、並びにグリーン購入を、積極的に推進します。

3. 化学物質使用量の削減、及び廃棄物の削減・分別処理

化学物質使用量の削減並びに廃棄物削減を推進し、分別処理を実践します。

4. 入庫車輛の排ガス低減整備等、環境と経済性に配慮したサービス商品の提供。

自動車から排出される有害な排出ガスやCO₂を削減するための「環境汚染防止整備」を推進

します。また、ハイブリッドカー(HV)や電気自動車(EV)及び低燃費ガソリン車等、環境性能に

優れた自動車の販売に注力します。

5. 環境関連法規の遵守

環境関連の諸法規及び当社が同意した各種協定を遵守します。

6. 継続的改善の実施

環境活動に関する目標を設定し、取組結果を見直すことにより、継続的な環境改善に取り組めます。

7. 環境啓発活動と地域・社会貢献活動の推進

社内外に対して、自動車に関する環境情報の提供を行い、啓発、教育活動を推進するとともに、地域

社会の一員として地域・社会貢献活動の推進に努めます。

平成二十六年六月一日

丸幸自動車工業株式会社

代表取締役 阿部 修

1. 組織の概要と対象範囲

1) 事業所名及び代表者名

丸幸自動車工業株式会社

代表取締役 阿部 修

2) 所在地

事業所	住所	電話
本社・本社扇町店	〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町3-8-28	022-232-5505 (代)
仙台新港店	〒983-0013 宮城県仙台市宮城野区中野字四反田 4-3	022-259-8080 (代)
幸町店	〒983-0835 宮城県仙台市宮城野区大槻9-7	022-291-1355 (代)
盛岡店	〒028-3603 岩手県紫波郡矢巾町西徳田8-26	019-697-3620 (代)

3) ホームページ・メールアドレス

<http://www.lotam-marukoh.co.jp>

E-mail: info@lotam-marukoh.co.jp

4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者： 本社 総務 担当取締役 芳賀 英夫 Tel/Fax : 022-232-5508 / 022-782-7547

担当者： 本社 小型整備部 野地 哲 Tel/Fax : 022-232-5619 / 022-782-7547

5) 事業の内容

自動車整備・钣金塗装・新車、中古車販売・カーリース・保険代理店業務・他

6) 事業の規模〔平成26年4月1日現在〕

資本金 9,000 万円

社員数 78 名

事業所数 4ヶ所

活動拠点	本社・扇町店	仙台新港店	幸町店	盛岡店
従業員数	29	28	2	12
敷地面積	1,674 m ²	4,218 m ²	172 m ²	2,232 m ²

7) 対象範囲

； 認証・登録範囲

平成 23 年度

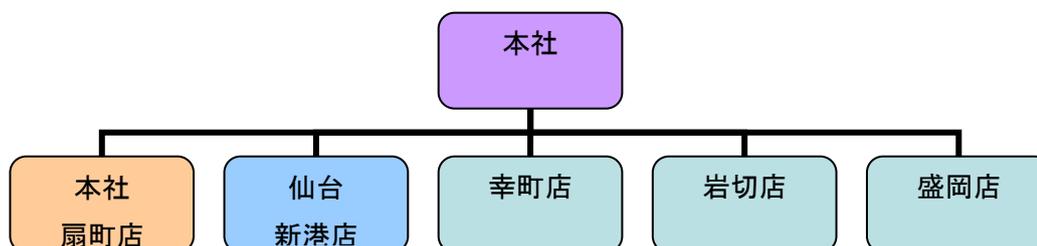
本社扇町店(整備・钣金塗装部門 17 名) 及び
本社全部門〔経理・総務・保険含む〕、を対象とする。

平成 24 年度以降

全事業所を対象とする。

平成 25 年 9 月

岩切店を閉鎖し、幸町店に統合(=4 店舗体制に移行)。



2. 環境目標とその実績

I. 今年度及び中期(3ヵ年)環境目標

(1) 環境負荷低減目標

- 1) **二酸化炭素排出量**については、この3年間の全体の推移に照らし(・絶対量⇒増、・売上高当り⇒ほぼ横ばい)、必ずしも、当初の意図した結果が得られていないことから、全社としての中期計画目標は、前中期分をそのまま継続することとし(⇒対25年度実績比**3か年で12%減**)、単年度目標設定についてのみ、個々の店の任意に委ねることとした。

本社扇町店 (但し、東北電力の排出係数は、0.000591t-CO₂/kWhとして算出。)

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
二酸化炭素排出量(自動車用除く)	Kg-CO ₂	65,790	86,349	81,065	
〃 売上高当り 実績	Kg/百万円	344	462	356	
〃 売上高当り 目標	Kg/百万円			(450)	342
二酸化炭素排出量(自動車用含む)	Kg-CO ₂	103,746	140,155		
〃 売上高当り 実績	Kg/百万円	543	749		
〃 売上高当り 目標	Kg/百万円			(657)	
CO ₂ 排出(自動車含 25 年度実績)	Kg-CO ₂			134,443	
〃 売上高当り(〃)	Kg/百万円			590	
〃 26 年度売上高当り目標	Kg/百万円				566

仙台新港店 (但し、東北電力の排出係数は、0.000591t-CO₂/kWhとして算出。)

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
二酸化炭素排出量(自動車用除く)	Kg-CO ₂	68,326	93,667	102,917	
〃 売上高当り 実績	Kg/百万円	146	140	166	
〃 売上高当り 目標	Kg/百万円			(134.4)	168
二酸化炭素排出量(自動車用含む)	Kg-CO ₂	98,127	115,187		
〃 売上高当り 実績	Kg/百万円	209	172		
〃 売上高当り 目標	Kg/百万円			(165)	
CO ₂ 排出(自動車含 25 年度実績)	Kg-CO ₂			126,032	
〃 売上高当り(〃)	Kg/百万円			203	
〃 26 年度売上高当り目標	Kg/百万円				205

幸町店（但し、東北電力の排出係数は、0.000591t-CO₂/kWhとして算出。）

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
二酸化炭素排出量(自動車用除く)	Kg-CO ₂	6,905	6,543	7,293	
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	64	68	51	
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(65.2)	49.0
二酸化炭素排出量(自動車用含む)	Kg-CO ₂	8,877	8,498		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	82	89		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(85)	
CO ₂ 排出(自動車含 25 年度実績)	Kg-CO ₂			9,990	
〃 売上高当り(〃)	Kg/百万円			70	
〃 26 年度売上高当り目標	Kg/百万円				67

盛岡店（但し、東北電力の排出係数は、0.000591t-CO₂/kWhとして算出。）

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
二酸化炭素排出量(自動車用除く)	Kg-CO ₂	37,857	45,383	47,587	
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	193	236	236	
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(226.5)	226.5
二酸化炭素排出量(自動車用含む)	Kg-CO ₂	71,998	72,407		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	367	377		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(362)	
CO ₂ 排出(自動車含 25 年度実績)	Kg-CO ₂			73,184	
〃 売上高当り(〃)	Kg/百万円			362	
〃 26 年度売上高当り目標	Kg/百万円				347.5

- 2) **総排水量**については、8頁記載の「実績合計」に明らかな通り、25年度実績値が、対23年度比では減っているものの、直前の24年度比では絶対量、売上高当り共に、いずれも増加に転じていることから、全体としての新中期目標は、**前目標(3か年で6%減)の継続、とした**(但し、店舗毎の年度目標は個別設定)。

本社扇町店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
総排水量実績	m ³	(363)	(298)		
〃 売上高当り実績	m ³ /百万円	(1.9)	(1.6)		
〃 売上高当り目標	m ³ /百万円			(1.57)	
総排水量(25 年度実績値)	m ³			383	
〃 25 年度売上高当り	m ³ /百万円			1.68	

〃 26 年度売上高当り目標	m ³ /百万円				1.65
-----------------------	---------------------	--	--	--	-------------

仙台新港店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
総排水量実績	m ³	(927)	(985)		
〃 売上高当り実績	m ³ /百万円	(2.0)	(1.47)		
〃 売上高当り目標	m ³ /百万円			(1.44)	
総排水量(25 年度実績値)	m ³			986	
〃 25 年度売上高当り	m ³ /百万円			1.59	
〃 26 年度売上高当り目標	m ³ /百万円				1.60

幸町店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
総排水量実績	m ³	(8.0)	(46)		
〃 売上高当り実績	m ³ /百万円	(0.7)	(0.48)		
〃 売上高当り目標	m ³ /百万円			(0.47)	
総排水量(25 年度実績値)	m ³			55	
〃 25 年度売上高当り	m ³ /百万円			0.38	
〃 26 年度売上高当り目標	m ³ /百万円				0.37

盛岡店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
総排水量実績	m ³	(250)	(212)		
〃 売上高当り実績	m ³ /百万円	(1.3)	(1.10)		
〃 売上高当り目標	m ³ /百万円			(1.08)	
総排水量(25 年度実績値)	m ³			228	
〃 25 年度売上高当り	m ³ /百万円			1.13	
〃 26 年度売上高当り目標	m ³ /百万円				1.10

(2) 自らが生産・販売・提供する製品、及びサービス

エコ整備・エコ車検等の環境汚染防止整備については、次々に市場投入されるハイブリッド車などの、いわゆる「エコカー」の普及が進むにつれ、相対的にその需要が逡減して行くようにも見られるが、低水準ながらまだまだ「エコ整備」の重要性と、潜在的な需要は尽きないと考える。

依って、新年度に於いても、前 25 年度に引き続き「10.0%以上の維持」を年度目標として設定した。

本社扇町店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
整備売上実績	百万円	(123)	(121)		
環境汚染防止整備売上実績	%	(7.6)	7.2		
〃 目標	%	10.0	10.0	10.0	
整備売上(25 年度実績値)	百万円			126	
環境汚染防止整備売上(〃)	%			7.6	
〃 26 年度目標	%				10.0

(3) 資源の再利用(リサイクル品の活用)、及びグリーン購入の促進

リサイクル部品の利用実績については、各店舗とも微増・微減の繰り返しで、全体目標とするところの 9%ラインになかなか届かない。目標自体決して到達不能なものではなく、最低限に近い現実的な数値であることから、従来通りの目標値のまま据え置き、その必達を目指したい。

本社扇町店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
リサイクル部品購入実績額	百万円	5.7	4.4	4.7	
購入実績比率	%	5.8	6.2	6.0	
〃 購入比率目標	%	(9.0)	(7.4)	(9.0)	9.0
エコマーク商品(社内使用実績額)	〃	0.06	0.11	0.05	
〃 購入実績比率	%	0.06	0.15	0.06	
〃 購入比率目標	%				4.9

仙台新港店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
リサイクル部品購入実績額	百万円	(6.7)	6.4	5.9	
購入実績比率	%	(6.5)	6.7	5.5	
〃 購入比率目標	%		(7.4)	(7.4)	5.0

盛岡店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
リサイクル部品購入実績額	百万円	(0.8)	1.0	1.4	
購入実績比率	%	(1.0)	1.4	1.9	
〃 購入比率目標	%		(7.4)	(7.4)	7.4

(4) 廃棄物の削減

廃棄物処分量については、仙台新港店の削減努力、盛岡店の有価引取り処理(リサイクル)の促進などが功を奏し、25年度実績値に於いて、大幅な減少を示すことができた。

但し、扇町店の絶対量の改善が見られないことから、26年度の全体目標としては、中期目標に沿って、対前年度比・2%削減を維持継続することとした。

本社扇町店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
廃棄物総量実績	Kg	17,250	15,390		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	90.3	82.4		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(80.7)	
廃棄物総量(25 年度実績値)	Kg			17,550	
〃 25 年度売上高当り	Kg/百万円			77.0	
〃 26 年度売上高当り目標	Kg/百万円				75.5

仙台新港店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
廃棄物総量実績	Kg	10,030	13,900		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	21.4	23.9		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(22.9)	
廃棄物総量(25 年度実績値)	Kg			7,750	
〃 25 年度売上高当り	Kg/百万円			12.5	
〃 26 年度売上高当り目標	Kg/百万円				12.2

盛岡店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
廃棄物総量実績	Kg	12,800	12,980		
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	65.3	67.6		
〃 売上高当り目標	Kg/百万円			(62.7)	
廃棄物総量(25 年度実績値)	Kg			2,740	
〃 25 年度売上高当り	Kg/百万円			13.6	
〃 26 年度売上高当り目標	Kg/百万円				13.3

(5) 化学物質の削減

「化学物質使用量」については、使用塗料の種類変更や、塗料メーカー自体の従来品の改善などが重なり、当初の予測をはるかに上回る、大幅な数値減少を達成することができた。

但し、今後は比較的小刻みな減少にならざるを得ないことから、あえて新年度目標値は、これまで通り、

対前年度比 2%を継続することとした。

本社扇町店のみ

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
化学物質総量実績	Kg	361	335	76	
〃 売上高当り実績	Kg/百万円	1.89	1.79	0.33	
〃 売上高当り目標	Kg/百万円				0.32

II. 目標の達成状況（ 本社を含む4店舗実績合計 ）

(1) 各店における環境負荷の合計値を算出したところ、次のようになった。

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
二酸化炭素排出量(自動車除く)	Kg-CO ₂	184,164	237,002	238,862
売上高当り	Kg/百万円	175	191	200
二酸化炭素排出量(自動車含む)	Kg-CO ₂	297,125	339,641	343,649
売上高当り	Kg/百万円	282	273	288
水使用量	M ³	1,716	1,621	1,652
売上高当り	m ³ /百万円	1.6	1.3	1.4
廃棄物処分量	kg	40,080	42,270	28,040
売上高当り	Kg/百万円	38	34	24
化学物質使用量(扇町店のみ)	kg	360.9	334.5	76. 2
売上高当り	Kg/百万円	1.89	1.79	0. 33

(2) **環境負荷の内訳**は次の通りである。

(I) 二酸化炭素排出量

本社扇町店

項 目	単 位	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
購入電力	Kg-CO ₂	57,331	53,064	72,272	66,082
灯油	Kg-CO ₂	9,143	12,308	13,631	14,625
LPG	Kg-CO ₂	463	419	446	358
CO ₂ 排出量(自動車を除く)合計	Kg-CO ₂	66,937	65,791	86,349	81,065
自動車用燃料・ガソリン	Kg-CO ₂	47,065	23,291	45,384	41,319
自動車用燃料・軽油	Kg-CO ₂	6,773	14,665	8,422	12,059
CO ₂ 排出量(自動車を含む)合計	Kg-CO ₂	112,217	103,746	140,155	134,443

仙台新港店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
購入電力	Kg-CO ₂	49,937	73,118	80,011
灯油	Kg-CO ₂	17,329	19,218	21,493
LPG	Kg-CO ₂	1,059	1,332	1,413
CO ₂ 排出量(自動車を除く)合計	Kg-CO ₂	68,326	93,668	102,917
自動車用燃料・ガソリン	Kg-CO ₂	18,566	20,953	20,890
自動車用燃料・軽油	Kg-CO ₂	11,235	566	2,225
CO ₂ 排出量(自動車を含む)合計	Kg-CO ₂	103,746	115,187	126,032

幸町店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
購入電力	Kg-CO ₂	6,076	6,065	7,113
灯油	Kg-CO ₂	668	302	0
LPG	Kg-CO ₂	162	177	180
CO ₂ 排出量(自動車を除く)合計	Kg-CO ₂	6,906	6,544	7,293
自動車用燃料・ガソリン	Kg-CO ₂	1,706	1,799	2,644
自動車用燃料・軽油	Kg-CO ₂	265	155	53
CO ₂ 排出量(自動車を含む)合計	Kg-CO ₂	8,877	8,498	9,990

盛岡店

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
購入電力	Kg-CO ₂	23,137	31,107	34,894
灯油	Kg-CO ₂	14,702	14,264	12,684
LPG	Kg-CO ₂	17	12	9
CO ₂ 排出量(自動車を除く)合計	Kg-CO ₂	37,857	45,383	47,587
自動車用燃料・ガソリン	Kg-CO ₂	21,204	16,732	15,328
自動車用燃料・軽油	Kg-CO ₂	12,938	10,292	10,269
CO ₂ 排出量(自動車を含む)合計	Kg-CO ₂	71,998	72,407	73,184

(Ⅱ) 廃棄物処分量

本社扇町店

項 目		単 位	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
	廃塗料・廃シンナー	Kg	335	0	0	0
	廃プラスチック類	Kg	920	2,990	2,750	3,030
	金属くず	Kg	4,950	9,540	7,320	6,020
	タイヤ	Kg	1,716	3,670	4,720	7,740
	廃油	Kg	400	1,050	600	760
産業廃棄物処分量合計		Kg	8,321	17,250	15,390	17,550

仙台新港店

項 目		単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
	廃塗料・廃シンナー	Kg	0	0	0
	廃プラスチック類	Kg	1,440	10,030	750
	金属くず	Kg	8,190	2,970	6,100
	タイヤ	Kg	0	0	0
	廃油	Kg	400	900	900
産業廃棄物処分量合計		Kg	10,030	13,900	7,750

盛岡店

項 目		単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
	廃塗料・廃シンナー	Kg	0	0	0
	廃プラスチック類	Kg	600	1,680	1,840
	金属くず	Kg	2,800	1,640	0
	タイヤ	Kg	0	0	0
	廃油	Kg	9,400	9,660	900
産業廃棄物処分量合計		Kg	12,800	12,980	2,740

(Ⅲ) 化学物質使用量(本社扇町店のみ)

項 目		単 位	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
	亜鉛化合物	Kg	7.9	1.2	9.2	12.0
	エチルベンゼン	Kg	76.0	100.0	96.0	15.6
	キシレン	Kg	170.0	220.0	200.0	41.8
	トリメチルベンゼン	Kg	6.0	3.65	4.3	1.5
	トルエン	Kg	24.0	36.0	25.0	4.3

	その他	Kg	0	0.05	0	1.0
	化学物質使用量合計	Kg	283.9	361.0	334.5	76.2

(IV) 資源利用量(主要三店舗)

本社扇町店

項目		単位	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
水	上水道	m ³	415	363	298	383
	水使用量合計	m ³	415	363	298	383

仙台新港店

項目		単位	平成23年	平成24年	平成25年
水	上水道	m ³	927	985	986
	水使用量合計	m ³	927	985	986

盛岡店

項目		単位	平成23年	平成24年	平成25年
水	上水道	m ³	250	212	228
	水使用量合計	m ³	250	212	228

(3) リサイクル部品、及びグリーン購入(エコマーク商品)購入率

本社扇町店

項目	単位	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
部品購入額	百万円	86.6	97.7	71.5	78.3
リサイクル部品購入額	百万円	4.9	5.7	4.4	4.7
リサイクル部品購入比率	%	5.6	5.8	6.2	6.0

エコマーク商品購入総額	"		0.06	0.11	0.05
グリーン購入・購入比率	%		0.06	0.15	0.06

仙台新港店

項目	単位	平成23年	平成24年	平成25年
部品購入額	百万円	103.1	95.5	108.1

リサイクル部品購入額	百万円	6.7	6.4	5.9
リサイクル部品購入比率	%	6.5	6.7	5.5

盛岡店

項目	単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
部品購入額	百万円	80.0	71.4	75.1
リサイクル部品購入額	百万円	0.8	1.0	1.4
リサイクル部品購入比率	%	1.0	1.4	1.9

(4) 環境汚染防止整備の推進

本社属町店のみ

項 目	単 位	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
整備売上	百万円	126	123	121	126
環境汚染防止整備売上	%	8.5	7.6	7.2	7.6

(5) 「エコカー」販売の推進

幸町店

	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度
(A) 総販売数	台	78	66	76
(B) エコカー販売数	台	29	28	25
構成比 (B / A)	%	37.	42. 4	32. 9

旧2店舗合計数

	単位	平成23年度	平成 24 年 度	平成 25 年 度
(A) 総販売数	台	205	186	116
(B) エコカー販売数	台	32	41	27
構成比 (B / A)	%	15.	22. 0	23. 3

Ⅲ. 環境目標の責任者及び担当者

項目	26年度目標	担当者	責任者
二酸化炭素排出量削減	25年度比-4%	EA21 工場エリア責任者	本社総務 担当取締役
水使用量削減	25年度比-2%	EA21 二階フロア責任者	
エコ整備の推進	年間整備売上の10%	EA21 整備推進者	
リサイクル部品購入推進	部品購入比 7.4%以上	EA21 一階フロア責任者	

グリーン購入の推進	部品購入比4.9%以上	EA21 一階フロア責任者	
廃棄物の削減	25年度比-2%	EA21 工場エリア責任者	
化学物質の削減	25年度比-6%	EA21 工場エリア責任者	
エコカー販売	幸町店(50%)	EA21 各店エリア責任者	
社会貢献活動	インターゾップの積極受け入れ	小型整備部長、総務部長	

3. 主要な環境活動計画の内容

1) 二酸化炭素の削減

- ① 昼休み及び不在時の照明消灯及び減灯。
- ② コピー機、パソコン等OA機器は極力待機電力とする。
- ③ 室内空調は、夏期は26度、冬期は23度とする。(エアコンの修繕)
- ④ LPガス(給湯器)の夏季使用の停止。
- ⑤ 残業を減らし、無駄な居残りはしない、させない。

2) 水使用量の削減

- ① トイレ等の水量を最小に設定。
- ② 洗車業務の標準化。(洗車マニュアルを作成)

3) エコ整備の推進

- ① 排出ガス低減、省燃費に有効なエコ整備・エコ車検の店頭説明による積極的販売。
- ② エコ整備メニューの拡大、商品化(タイヤ・バッテリー等)。
- ③ オイル祭、チラシ等での広報活動。
- ④ エコ整備担当メカニックを選任する。

4) リサイクル部品購入、及びグリーン購入の推進

- ① リサイクルパーツ、及びエコマーク商品の積極的使用。
- ② 見積段階でお客様へリサイクルパーツ修理の提案。(リサイクルチラシの作成)
- ③ 新品部品とリサイクル部品の価格比較表の作成。

5) 廃棄物の削減

- ① 紙類の分別回収による再資源化。
- ② 弁当類の容器持ち帰り。
- ③ 生ごみの分別、持ち帰り。
- ④ 金属類の分別回収、アルミの再資源化。
- ⑤ プラスチック(バンパー類)の再資源化の推進。
- ⑥ 廃オイルの有償化

※尚、各部署における具体的取組の推進状況は「環境行動チェックシート」により随時、監視をする。

チェック結果やデータ集計結果は、月一回の環境会議にて討議する。

6) 化学物質の削減

- ① 作業上の1回当り塗料使用量の平準化(=作業担当者ごとの使用量のムラを無くす)。
- ② 低溶剤の使用推進。
- ③ 塗装ブース内のフィルター交換(=工場内の大気汚染防止)。

7) エコカー販売の推進

- ① ハイブリッド車、及びEV車(電気自動車)の積極販売。
- ② 低燃費ガソリン車(主に軽自動車)の積極販売。

8) 環境啓発活動と、社会貢献活動の推進

- ① 自動車整備振興会主催「無料マイカー点検講習」への講師派遣。
- ② 国交省東北運輸局主催「違法改造車等街頭検査」への立会い参加。
- ③ 高校生等を対象とするインターンシップ(職場体験学習)の積極的受け入れ。

4. 25年度環境活動の取組み結果の評価

全店舗での環境活動も2年目を迎え、全社員に対する意識づけという点では、徐々に具体的な形で浸透してきたように思う。

項目別では、廃棄物処分量や、化学物質使用量の削減活動に於いて、大きな減少効果が得られた反面、二酸化炭素排出量については、高止まりしたまま足踏み状態が続いている。

東日本大震災後3年目を迎え、その関連需要もほぼ一巡し、平常に戻りつつあるだけに、電力・ガソリン等の環境負荷要素に対しては、新年度以降、日常業務の中でより緻密な方策と対応が必要ではないか、と痛感している。

以下に各活動結果を報告する。

1) 二酸化炭素排出量削減

(I) 「電力等」自動車関係を除いた場合

主要3店舗の『電力』の対前年度実績比を見ると、その絶対量に於いて、扇町店(▲8.5%)に対し、仙台新港店(+9.4%)・盛岡店(+12.2%)と、極めて対照的な結果を示している。

これは、小型整備中心の扇町店にあっては、既に「震災」関連重要が事実上終息し

ているのに対し、大型整備中心の他の2店舗が、今もって関連需要の「追い風」を受けていることと無関係ではないと思う。

但し、この2店舗については売上高当りで見ても、それぞれ「増加」もしくは「横ばい」であることから今後
は絶対量の削減のみならず、「効率性」という観点からも、注意深く削減努力を続けて
行きたいと考える。

(Ⅱ)「ガソリン等」自動車関係を含めた場合

「ガソリン・軽油」を含めた二酸化炭素排出量全体の合計では約 1%の増加となり、前年度対比ほぼ横ばいの状態となったが、内訳的には、電力量等非自動車部門の増加が、そのまま全体数値に現れた結果となった。

従って、ガソリン及び軽油自体の絶対量の増加は、各店ともほとんど見られないが、反面一昨年(23年)度実績値との隔たりは依然大きく(⇒自動車を含む **CO2 排出絶対量の乖離差15.6%**)、また売上高当りでの増加幅についてみた場合には、新港店の実績値が突出して大きい(⇒売上高当り;**対前年度実績比・18.0%増**《絶対量は同9.4%増》)ことなど、絶えざる削減努力と共に、他店舗も含め、新年度の共通課題として、『**効率性の重視**』をより強く打ち出して行きたいと思う。

2) 水使用量の削減

全店舗での絶対量の合計は、対前年度比1.9%増となり、これまで比較的順調に使用量の削減が継続できたにもかかわらず(22年度以前の、扇町店単独時を含む)、僅かながらも増加に転じてしまったことは残念に思う。

要因的には、本社扇町店の使用量増加が、そのまま全体の結果に直結した形であり、新年度は一昨年度時点に立ち返り、扇町店を中心に『**節水**』に努めたいと考える。

3) 環境汚染防止整備と、エコカー販売の推進

扇町店の整備関係売上高全体に占める、エコ整備(=環境汚染防止整備)の割合は、ここ数年ずっと「横ばい状態」(7%台~8%台)で推移している。

市場環境的には、HV車(ハイブリッド車=エンジン・モーター併用車両)やEV車(電気自動車)が、次々市場投入される中であって、旧来型車両を対象とする「エコ整備」(=省燃費エンジンオイルの交換、及びエンジンオイルの内部洗浄など)の売上が伸び悩む結果となっていることは、一面止むを得ないことだとは思う。

しかし低成長時代といわれる現在、その潜在需要は中期的なスタンスから見ても、依然根強いものがあり、また、当社の独自性アピールの為の整備商品として、新年度以降もそ

の取扱いを、維持拡大して行きたいと考えている。

また「エコカー販売」に関しては、当年度上半期半ばにして「岩切店」が閉鎖となった為、実質的な販売力のダウンから、必ずしも満足すべき成果は得られなかった。

新年度に改めて、販売体制を再編し、目標値(車両販売総数の 50%以上)突破を目指したい。

4) リサイクル部品の購入、及びグリーン購入の推進

車両整備上、本来、再生部品(リビルト品)や中古部品等の「リサイクル部品」の利用は、その価格的な合理性から、もっとお客様への普及が促進されて然るべきと考えられるが、残念ながら当社としての結果は、ここ数年購入実績額、及び新品を含む部品購入総額に占める実績比ともに、低数値(=実績比・5%台~6%台)のまま推移している。

要因的には、新品部品が常に、ディーラー及び部品商ともに即納体制にあるのに対し、リサイクル部品は納期的に大幅に遅れをとってしまう為と考えられるが、お客様への経済的な便宜、並びに社会的な意義を再考し、引き続き取扱い高の向上につとめたい。

尚、グリーン購入(=エコマーク商品の購入)については、現行内容が文具関係を中心とした微々たる金額にとどまっていることから、今後は、新たに購入対象の幅を精査拡大し、内容的に、より実のあるものとして行きたい。

5) 廃棄物の削減

廃棄物排出量については、昨24年度5.5%の増加を見たのに対し、今年度は一気に約33%の減少(主要3店舗絶対量の合計)を示すことができた。

内訳的には、盛岡店(前年度対比・約78%減)、及び仙台新港店(同・約44%減)の削減努力が大きく、本社扇町店は逆に14%の増加となった。

今回、圧倒的に減少した大きな要因としては、「事故車や老朽車両の入庫が少なく、廃棄物処理の比較的少ない通常車両の入庫が多くなってきたこと」(新港店担当)などの見解もあげられたが、基本的には「廃棄物内容の精査に基づき、一部引取り業者との間に“有価引取り”(=リサイクル品扱い)を取り決めたこと」(盛岡店担当)及び、そうした前向きな取り組み姿勢こそが、最大の削減要素に繋がったものと考えられる。

今後とも、この様な盛岡店の『削減マインド』を大切にするとともに、改めて本社扇町店に於いても、同店の具体的な取り組み姿勢に学びたいと思う。

6) 社会貢献活動

昨年度に引き続き、高校生を対象とするインターンシップ(=職場体験学習)を、本社扇町店を中心に実施した(但し、仙台新港店は、工場内作業現場の説明と見学、幸町店は、テレビアクションの説明と見学)。

本年度は、初めて女子生徒2名(両名とも仙台工業高校・機械科2年)を受け入れ、前

年同様5日間の実習指導を行なった。

インターンシップも2回目を迎え、現場各社員の対応にも、事前の説明準備をするなど、良い意味での余裕と共に、楽しみにしている様子もうかがえるなど、実習生よりも、むしろ当社社員に与える教育的効果の方が、はるかに大きいように思えた。

来年度以降も、是非、本取り組みを学校側と連携の上、発展的に当社内に根付かせて行きたいと考えている。

尚、宮城・岩手両県の自動車整備振興会主催「マイカー無料点検サービス」、及び「街頭検査立会い」(宮城県警及び宮城運輸支局への協力)などには、今年も積極参加を行なった。

7) 総合評価

2年目を迎えた全社での「25年度エコ活動」の展開は、環境負荷項目の前年度実績対比の内、二酸化炭素排出量と水使用量の削減については、それぞれ足踏み状態に終わったが、盛岡店の廃棄物処分量の削減に於いて、前向きな取り組み姿勢により大幅な減少結果を得たことは、数値自体の減少よりも、全社展開に基づく具体的な成果として、次年度以降に繋がるものと確信する。

この他、リサイクル部品の購入取扱いや、エコ整備及びエコカー販売の推進などについては、依然低レベルのまま、来年度への宿題として残る形となった。

いずれも当社の本業に直結する分野であり、今後それぞれのビジネスとしての可能性を再考し、取り組み体制の改善を図って行きたい。

5. 次年度の取組内容

先に記した通り、久々に「廃棄物処分量」及び「化学物質使用量」に於いて、大きな削減結果を得た反面、環境

負荷の最大の削減テーマである「二酸化炭素排出量」については、電力・ガソリン(軽油)共に、対前年比ほぼ横

ばいであるものの、その前年度(23年度)と比較した場合、CO₂ 排出総量で約15%の増加を来したままであ

ることを踏まえれば、当然、新年度はこの点の具体的改善を図って行くことが最優先と思う。

また、社会貢献活動(インターンシップ等)については、少しずつではあるが、極めて無理のない形で社内意識

として育ちつつあり、インターンシップ3年目を迎える26年度も、是非、社内に大きく根付かせて行きたいと考え

ている。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1) 適用となる主な環境関連法規

法律等の名称	該当する活動
道路運送車両法 騒音・振動規制法	法定点検、及び整備作業時における検査業務
自動車リサイクル法	自動車におけるシュレッダーダスト、フロン類、エアバック類の適正処理及びリサイクルの促進
廃棄物処理法	廃棄物の抑制、適正処理、生活環境の清潔、公衆衛生の向上等
水質汚濁防止法	工場・事業場からの公共用水域への排出、地下水への浸透
消防法	防火設備の定期点検、管理者の任命、消防訓練の実施、及び左記事項に関する、消防署への報告書届け出。
労働安全衛生法	板金塗装業務担当社員に対する、「特殊健康診断」(有機溶剤等健診)の実施。

2) 違反、訴訟等

環境関連法令順守状況チェックの結果、環境関連法規への違反は無し。

また、違反について関係機関等からの指摘は特に無く、また、訴訟も同様に一件もなかった。

7. 代表者による全体評価と、見直しの結果

全社で『エコ活動』に取り組み始めて、満2年が経過した。この間、全社員についてどれ程の環境意識の高まりがあったかと問われれば、いささか答えに窮する部分も無くはない。事実、当社の環境活動の各目標項目について見れば、その大半が一進一退の繰り返しである。

しかし、この1年の活動成果を振り返り、例え一部の部署・社員にせよ、明確に環境活動の社会的意義と、ビジネスとしての自動車整備業を、ごく自然に無理なく結び付け、一定の活動成果を生み出していることに、経営者としての私は注目する。

盛岡店に於ける「廃棄物処分」や、本社扇町店(板金塗装部門)に於ける「化学物質の削減」などはその好例であり、決して『活動の為の活動』でもなく、逆に環境要素を顧みない『商売優先』に陥ることもない。私は、これらのことを知るに及んで、ようやく当社の目指すべき、一つの着地点を見る思いをしている。

また、昨年より始めた『インターンシップ』の受け入れも、より広い意味で共通するものと考えられる。

とは言え、道のりはまだまだ遠く、環境負荷項目等の課題は、“古くて、新しい”ことばかりである。課題克服の具体的方法を絶えず模索しながら、そして社員一人一人と、共に楽しみながら、前述の『着地点』を目指して行きたいと思う。

(以 上)